

# 令和7年度事業報告書

## はじめに

生乳の需給緩和の状況は依然続く中、資材価格の高騰等により酪農乳業全体が大変厳しい経営環境にあります。このような中で酪農乳業に携わる方々の様々なご要望に的確にお応えできるよう、令和7年3月24日開催の第40回理事会で承認された事業計画に沿って、財政の健全化と信頼性・サービス向上の両立に努めつつ、事業を実施しました。

乳・乳製品にこだわった試験検査機関として引き継がれ培われてきた技術やノウハウ等を最大限に活かしつつ、食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025 認定試験所として、新たな分野も含めてより一層の研鑽を積んで、信頼の確保に努めました。

新たな業務にも積極的に取り組み、酪農乳業界みなさまの試験検査機関としての役割を果たせるように努めました。

各事業の概要は、以下のとおりです。

## 〔公益目的事業〕

### 1 法令に基づく検査・認定

#### (1)食品衛生法に基づく試験検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、輸入乳製品の食品衛生関連法令に基づく試験検査を実施しました。

・輸入乳製品の自主検査(脱脂粉乳、バター、ホエイパウダー等)

54 検体 (6 年度 53 検体、5 年度 60 検体、4 年度 59 検体)

#### (2)指定乳製品等検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、畜産物の価格安定等に関する法律施行規則等に基づき、輸入乳製品の品質検査を実施しました。依頼者の要請に的確に応えられるよう、サンプリング、検査の計画を立てて実施しました。前年度と比較してバターは減少、脱脂粉乳、ホエイ及び調製ホエイは増加、バターオイルはほぼ横ばいでした。

単位：検体

種類	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
バター	2,081	2,840	2,218	1,773
脱脂粉乳	119	99	194	23
ホエイ及び調製ホエイ	62	55	184	249
デイリースプレッド	0	0	0	0
バターオイル	62	60	52	64
加糖練乳	0	0	0	0
計	2,324	3,054	2,648	2,109

## 2 依頼による試験・調査

### (1)依頼による食品等の理化学的、微生物学的試験

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025 認定試験所として、試験を受託して実施しました。

- ・受託品目：飲用乳、アイスクリーム類、調製粉乳、発酵乳、練乳、チーズ、脱脂粉乳、飼料用粉乳、その他食品等
- ・試験項目：理化学  
乳脂肪分、無脂乳固形分、たんぱく質、灰分、放射能、金属(Na、Ca)、溶解度、スコーチドパーティクル等  
微生物  
細菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、高温菌数、リステリア・モノサイトゲネス、黄色ブドウ球菌等
- ・検体数：3,363 検体  
(6年度：2,808 検体、5年度：2,718 検体、4年度：3,210 検体)  
うち、放射能検査：177 検体  
(6年度 209 検体、5年度 230 検体、4年度：211 検体)

### (2)HACCP 制度化等に対する対応

食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法(HACCP 支援法)に基づく指定認定機関として、乳業者及び6次産業化に取り組む酪農家への情報提供、相談受付等を実施してきましたが、本法は令和5年6月30日をもって失効しました。その実績を活かし食品衛生法に基づくHACCPに沿った衛生管理に取り組む乳業者や酪農家を支援するため、関連情報の提供、相談対応等を実施しました。

乳業団体が開催する衛生講習会のテキスト作成、講師として参画いたしました。

### (3)依頼による調査

#### ① 全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼による調査

全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼を受け、全国飲用牛乳公正取引協議会製

品等検査規程に基づき市販品成分検査と認定検査機関実務調査及び期限表示設定検証試験を実施しました。市販品成分検査(乳飲料を除く)については試験結果の判定まで実施しました。

#### 市販品成分検査

単位：検体

種類	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
牛乳	168	178	197	174
加工乳	14	15	16	20
乳飲料	80	171	151	188
成分調整牛乳他	23	39	42	35
計	285	403	406	417

#### 期限表示検証試験

	依頼者数	検体数
令和7年度	29	174
令和6年度	12	144

認定検査機関実務調査は、すべて現地調査で対応しました。

・認定検査機関の実務調査:13 施設

(6年度:24 施設、5年度:25 施設、4年度:29 施設)

### ②生乳と乳製品の安全性・信頼性向上事業のうち 6次化乳製品の衛生管理支援事業

(公財)全国競馬・畜産振興会助成(令和6～8年度)

6次化乳製品の製造・販売により経営安定を目指す酪農家に、HACCPへの適切な対応や6次化乳製品の安全性、品質、信頼の向上のために、外部委員による推進委員会(6月開催)における具体的な計画等の検討後以下ア～エを実施しました。

ア. 衛生管理計画、HACCPプラン策定、検証のための検査・助言

・工房の環境検査:20件(10工房×2回)

・生乳の殺菌工程前後の微生物検査数:120件(10工房×(殺菌前3件+殺菌後3件)×2回)

・HACCP模擬立入検査:3件

イ. 乳製品の安全性、品質安定・向上のための技術的支援

・生乳及び乳製品の成分、微生物等検査数:101件

ウ. 期限表示設定のための技術的支援

・期限表示設定のための検査:8件

エ. 衛生管理研修会等による技術的支援

・衛生管理研修会：第1回(10月29日開催、参加15人)

第2回(3月27日開催、参加15人)

### ③飼養管理指標検査普及推進事業

地方競馬全国協会補助(令和5～7年度)

適正な生乳取引に必要な生乳検査の精度管理及び乳牛の飼養管理指標(脂肪酸組成及び遊離脂肪酸)検査の精度管理を図るため、ア及びイを実施しました。

ア. 飼養管理の指標として活用され始めている生乳中の脂肪酸組成及び遊離脂肪酸の検査の精度管理に必要な校正用試料乳(校正乳)の提供体制を整え、精度管理の手法について検討し、脂肪酸組成および遊離脂肪酸に関する検査技術者連絡会(講演3題:「脂肪酸組成の検討状況について」、「遊離脂肪酸用校正乳の検討状況について」、「FT-IR 乳成分測定装置ミルコスキャン用検量線の精度管理」)を11月25日に、普及のための研修会(講演2題:「乳成分が教えてくれるルーメンのサイン— FAO 等の指標をどう飼養管理に活かすか—」、「現場における脂肪酸組成の活用(応用編)」)を2月27日に開催しました。

イ. 生乳検査所における生乳検査の精度管理に必要な校正乳の定期的提供を続けられるよう、適切な原料生乳を安定的に調達できる手法を確立するための調査・検討を行いました。

#### ④国産ナチュラルチーズ高付加価値化推進事業

地方競馬全国協会補助(令和6~8年度)

国産チーズスターターの実用化を図るため、チーズ工房ワークショップを6月10日に東京および7月2日に札幌で開催及びチーズ工房での取り扱いを容易とする粉末形状等のスターターを試作し、のべ29戸のチーズ工房に配布し、それを用いて製造したチーズの品質に係る科学的データ収集し、その品質向上の度合いを可視化しチーズ生産者に共有することにより利用促進を図りました。

また、ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテストとチーズフェスタ2025に出展及び2月18日に消費者向けイベントを開催し、国産スターターを利用した国産ナチュラルチーズの需要創造を図りました。

#### ⑤乳等命令理化学分析法見直しに関する検討

国立医薬品食品衛生研究所からの受託研究(令和7年度)

消費者庁による令和7年度食品衛生基準科学研究費補助金研究事業「わが国における食品等のリスク要因に応じた規格基準策定のための研究」(研究代表者:上間匡 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長)の一環として実施された「国際整合を踏まえた乳等命令分析法の見直しに関する研究」(分担研究者:国立医薬品食品衛生研究所安全情報部第一室長 渡邊敬浩)の基礎的検討として、乳の乳脂肪分析法の特性把握に資するデータ取得に係る試験を実施しました。

本分担研究課題は、平成27-29年度に厚生労働省により実施された「国際的な動向を踏まえた乳及び乳製品の試験法の研究」により指摘された「乳等省令」(昭和26年に交付、現「乳等命令」)分析法の課題を改めて抽出し、国際標準化機構(ISO)や国際酪農連盟(IDF)等の機関により規格化され Codex 委員会により採択された分析法への整合を目的としており、乳等命令理化学分析法見直し検討委員会の検討会委員として第1回検討委員会(8月19日)および第2回検討委員会(11月19日)に参画しました。

### 3 研修会の開催・講師派遣

#### 【協会主催の研修会】

生乳や乳製品の検査を行う技術者を対象とした実技中心の研修会は、生乳検査技術研修会が計5回、参加者は合計39名(6年度39名、5年度39名)、ブリード法検査技術研修会が計3回、参加者は合計11名(6年度4名)でした。感染症予防対策を徹底して対面形式で開催し、研修生のご要望等に的確にお応えできるよう、講義内容、資料、実習用器材等について工夫、改善を加えながら実施しました。

官能評価員研修会は、乳・乳製品の官能評価体制強化支援事業((公財)全国競馬・畜産振興会助成(令和5～7年度))を活用して開催しました。基礎研修会を4回、専門研修会を1回、集乳担当者向け基礎研修会をオンライン形式で5回、酪農家向け研修会を対面、オンライン形式で13回開催しました。

#### 開催実績

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者	
生乳検査技術研修会 実技：乳脂肪分、たんぱく質 乳固形分、比重、 体細胞数、抗生物質 講義等：生乳検査精度管理に 関する講義、認証制度 の説明	5月12日～14日	8人	
	7月7日～9日	8人	
	10月1日～3日	8人	
	1月19日～21日	8人	
	2月25日～27日	7人	
	計5回 〔 6年度5回 〕 〔 5年度5回 〕	計39人 〔 6年度39人 〕 〔 5年度39人 〕	
ブリード法検査技術研修会 実技：ブリード法	9月18日	4人	
	11月13日	3人	
	1月29日	4人	
	計3回 〔 6年度 1回 〕 〔 5年度 なし 〕	計11人 〔 6年度 4人 〕 〔 5年度 なし 〕	
官能評価員 育成研修会	基礎研修会	6月19日	19人
		7月24日	22人
		8月28、29日	33人
		10月29日	23人
	専門研修会	12月17日～18日	22人
	計5回 〔 6年度 5回 〕 〔 5年度 6回 〕	計119人 〔 6年度 74人 〕 〔 5年度134人 〕	
集乳担当者向け 基礎研修会 (オンライン)	5月26日	29人	
	6月23日	21人	
	9月29日	16人	
	10月20日	17人	
	12月1日	25人	

	計5回 〔 6年度 6回 5年度 5回 〕	計108人 〔 6年度 137人 5年度 129人 〕
酪農家向け 基礎研修会	5月29日	30人
	7月 4日	15人
	7月16日	6人
	7月30日	25人
	7月31日	30人
	8月27日	21人
	11月13日	29人
	12月 8日	20人
	12月11日	20人
	12月12日	20人
	1月15日	30人
	2月17日	13人
	3月18日	13人
	計13回	計272人

### 【乳業関係団体等の依頼による研修会】

全国飲用牛乳公正取引協議会、一般社団法人日本アイスクリーム協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会等の依頼を受け、検査技術研修会 8 回(6 年度 9 回、5 年度 9 回)、アイスクリーム検査技術研修会 1 回(6 年度 2 回、5 年度 2 回)、微生物検査研修会 1 回(6 年度 1 回、5 年度 1 回)、合計 10 回実施し、参加者は合計 100 名(6 年度 110 名 5 年度 115 名)でした。

### 開催実績

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
全国飲用牛乳公正取引協議会 検査技術研修会 ・分析基礎コース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 乳固形分（全固形分） 比重、滴定酸度 講義等：精度管理に関する講義 ・細菌検査コース 実技：細菌数、大腸菌群、 低温細菌数、 耐熱性菌数、体細胞数、 抗生物質 講義等：精度管理に関する講義 ・合併コース 実技：分析基礎コース、細菌検査コースの合併	5月26日～5月30日 合併コース	8人
	6月4日～6月6日 分析基礎コース 細菌検査コース	8人 6人
	6月23日～6月27日 合併コース	8人
	6月30日～7月4日 合併コース	中止
	8月4日～8月6日 分析基礎コース 細菌検査コース	6人 4人
	8月25日～8月29日 合併コース	5人
	9月24日～9月26日 分析基礎コース	中止

	細菌検査コース	
	10月27日～10月31日 合併コース	9人
	11月17日～11月21日 合併コース	9人
	12月1日～12月5日 合併コース	7人
	計8回 〔 5年度 9回 4年度 9回 〕	計70人 〔 6年度 72人 5年度 82人 〕
一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会 微生物検査研修会 実技：一般細菌数、乳酸菌数、 ビフィズス菌数、大腸菌群 講義：発酵乳・乳酸菌飲料にお ける微生物学の基礎と検 査方法	11月27日～11月28日  〔 6年度 1回 5年度 1回 〕	16人  〔 6年度 20人 5年度 17人 〕
一般社団法人日本アイスクリーム協会 アイスクリーム検査技術研修会 ・理化学コース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 全固形分 ・微生物コース 実技：細菌数、大腸菌群、黄色 ブドウ球菌、抗生物質	2月18日～20日 理化学コース 微生物コース  計1回 〔 6年度 2回 5年度 2回 〕	6人 8人  計14人 〔 6年度 16人 5年度 12人 〕

### 【講師派遣】

乳業団体等の依頼を受け、のべ7名(6年度 13名、5年度 10名)の講師等を派遣しました。

### 派遣実績

研修会の主催者、内容等	期間	場所
東京飲用牛乳協会 牛乳衛生講習会	7月10日	東京都 千代田区
一般財団法人蔵王酪農センター ナチュラルチーズ製造技術基礎研修会 「安全なチーズを生産していただくために」	7月22日 11月18日	宮城県 蔵王町
流通企業 生乳検査研修会	9月9日	岩手県 胆沢郡
四国地区牛乳協会 牛乳衛生講習会	9月11日	愛媛県 東温市

石川県牛乳協会 牛乳衛生講習会	10月7日	石川県 金沢市
--------------------	-------	------------

全国農協乳業協会の依頼を受け、「乳業製造技術通信教育」の「牛乳・乳製品検査法」の講師を担当し、テキストの改訂、レポートの課題作成、添削、採点等を行いました。

一般社団法人Jミルクの依頼を受け、ミルクフェス in 豊洲 (11月15日 東京都江東区)の官能評価体験ブースにアドバイザーとして参加しました。

## 4 研究・技術・調査情報の提供等

### (1) 乳業技術誌の刊行

Vol.75 2025 を刊行し、関係行政機関、酪農乳業団体・企業、関係大学他約 200 施設に配布しました。

編集委員(◎編集委員長)

◎松田 幹	福島大学 農学群 食農学類 特任教授
小林 敏也	雪印メグミルク株式会社 ミルクサイエンス研究所 所長
齋藤 忠夫	東北大学 名誉教授
鈴木 チセ	日本大学 生物資源科学部 食品開発学科 教授
武田 安弘	森永乳業株式会社 研究本部 フェロー
藤川 浩	東京農工大学 名誉教授
前田 和可子	協同乳業株式会社 研究所 副所長
三浦 貴裕	株式会社 明治 加工技術研究ユニット長
姫田 尚	公益財団法人日本乳業技術協会 理事長
辻山 弥生	公益財団法人日本乳業技術協会 専務理事

総説・解説

安全で安心な乳・乳製品を消費者に届けるために

—なぜ、乳等命令理化学分析法の見直しが必要なのか。—分析法の妥当性確認と国際整合が果たす役割—(渡邊 敬浩)

牛乳・乳製品と健康:疫学研究からのエビデンス(津金 昌一郎・山岸 万里菜)

日本版栄養プロファイリングモデルの開発(東泉 裕子・竹林 純)

MALDI-TOF MS による微生物同定法と食品製造分野への応用(千葉 絃子)

牛乳・乳製品と微量栄養素について(松井 徹)

読者からの話題提供

機能性の高いのはどっち? —動物性乳酸菌と植物性乳酸菌—(眞鍋 昇)

乳技協だより

渡邊さんに聞いてみた(岩崎 司)

### (2) 全国集乳路線別生乳成分調査

全国の生乳成分(乳脂肪分(F)、無脂乳固形分(SNF))の調査を昭和 50 年以降継

続いて実施しており、乳業各社のご協力を得て「全国集乳路線別生乳成分調査第 51 報」を取りまとめ、協会HPに公表しました。

令和 7 年 1 月～12 月の調査延べ路線数は、工場到着ローリー乳で 7, 683(令和 6 年 7, 625、令和 5 年 7, 845)、全生乳生産量(1日あたり)に対する調査対象乳量のカバ ー率は 41.7% (令和 6 年 41.5%、令和 5 年 42.4%)でした。

#### 協力会社名 (50 音順)

協同乳業株式会社  
 グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社  
 信州ミルクランド株式会社  
 北陸酪農業協同組合連合会  
 株式会社明治  
 森永乳業株式会社  
 雪印メグミルク株式会社  
 よつ葉乳業株式会社

F, SNFの地域別平均値 単位:%

地域	F	SNF	地域	F	SNF
北海道	4.064	8.890	近畿	3.926	8.881
東北	3.968	8.838	中国	4.025	8.887
関東・東山	3.908	8.850	四国	3.964	8.883
北陸	3.892	8.856	九州	4.024	8.886
東海	3.872	8.878			
			全国平均	4.042	8.886
			〔 令和 6 年	4.019	8.856
			令和 5 年	3.991	8.818

### (3)技術関連情報の提供

乳・乳製品の試験検査の手技・手法、品質管理や表示のための試験法、分析値の活用法等に関する乳業者、乳業団体、公的機関の試験検査担当者、6次産業化に取り組む酪農家、流通業者等からの幅広い問い合わせに対応しました。

協会ホームページに、生乳検査精度管理に関する情報、乳業技術 Vol.75 2025、生乳検査精度管理に関するガイドライン Q&A、試験検査に関連する情報及び、オンラインで実施した講演の動画等を掲載しました。

### (4)関係機関、関係団体との連携

関係機関、関係団体の会議、委員会等に参加(リモート、書面を含む。)し、情報の収集や意見交換等を行いました。

団 体 等	会合名、内容等
全国飲用牛乳公正取引協議会	常任委員会、専門部会、専門小委員会
(一社)日本乳業協会	定時社員総会、HACCP 検討小委員会
(一社)日本乳容器・機器協会	理事会
チーズ公正取引協議会	常任委員会、技術小委員会
(公社)畜産技術協会	総会

(公社)中央畜産会	定時総会
畜産飼料調査会	総会
東京飲用牛乳協会	品質改善委員会
関東生乳販売農業協同組合連合会	生乳品質改善共励会 (理事長賞)
食品衛生登録検査機関協会	総会
全国農協乳業協会	「乳業製造技術者通信教育」講師検討会議
(一社)Jミルク	定時総会、ISO/TC34/SC5 国内審議委員会 安全性確保品質向上委員会他

## (5)研究成果の発表

乳業技術 Vol.75「乳技協だより」に、「渡邊さんに聞いてみた」を掲載しました。

## 5 生乳検査精度管理

生乳検査精度を高い水準で維持することの重要性に鑑み、引き続き、測定機器校正のための試料乳(乳成分用、体細胞数用)の配付、生乳検査外部精度管理調査(技能試験)及び生乳検査精度管理認証制度の業務を実施しました。

### (1)測定機器校正のための試料乳の配付

乳成分用試料乳配付数 2,603 セット

(6年度 2635 セット、5年度 2,648 セット、4年度 2,669 セット)

体細胞数用試料乳配布数 347 セット

(6年度 357 セット、5年度 370 セット、4年度 392 セット)

配布に併せ、キャリブレーション参考資料を協会 HP に毎月掲載しました。

### (2)生乳検査外部精度管理調査

参加施設 99 施設 (6年度 102 施設、5年度 104 施設、4年度 105 施設)

参加施設名を協会 HP に掲載して公表するとともに、「参加証」を引き続き発行しました。

### (3)生乳検査精度管理認証制度

生乳と乳製品の安全性・信頼性向上事業の生乳検査精度管理認証制度事業((公財)全国競馬・畜産振興会助成(令和6~8年度))を活用して次のように実施しました。

- ・ 国際規格の ISO/IEC17025 に準拠させる改正を実施するとともに、「生乳検査精度管理認証基準」と名称を改めました。
- ・ 認証申請施設の書類調査・現地調査を、更新21施設について実施し、生乳検査精度管理認証特別委員会(9月、3月)の審議・答申を受けて、10月1日付け及び4月1日付けで21施設(更新21)を認証しました。
- ・ 生乳検査精度管理委員会を開催(9月・1月(書面開催))し、認証基準別記および標準作業書作成のガイドライン、Q&A の改正について意見を聴取のうえ、4月1日付けで改正しました。
- ・ 生乳検査技術者連絡会を開催(12月)し、「食品分析試験所のこれからのために-品質保証の振り返りと国際整合を目的とした乳等命令化学分析法の見直し」の講演を実施しました。
- ・ 信頼性確保部門責任者研修会を開催(10月)し、「生乳検査の精度管理体制に

ついて」、「生乳検査精度管理認証制度の運用と課題への取り組み」の講演を実施しました。

## **6 国際酪農連盟日本国内委員会**

微生物・衛生専門分科会(7月、2月)、分析技術・衛生専門分科会(2月)、国際規格専門分科会(8月、2月)、ISO/TC34/SC5(牛乳及び乳製品) 国内審議委員会(8月、2月)に参画しました。

### **〔収益事業等〕**

所有する土地建物の貸借業務を民間事業者に委託して実施し、運用益は計画を下回りましたが、公益目的事業に充当しました。

## 〔報告事項〕

### 1. 庶務事項

令和 7 年 4 月 9 日 , 11 日	令和7年度畜産振興補助事業選定申請書提出 (地方競馬全国協会)
令和 7 年 4 月 17 日 ~ 18 日	公認会計士 指導・監査
令和 7 年 4 月 25 日	令和6年度日本中央競馬会畜産振興事業実績報告書 提出((公財)全国競馬・畜産振興会)
令和 7 年 4 月 30 日	監事監査
令和 7 年 5 月 22 日	第41回理事会
令和 7 年 5 月 23 日	令和6年度畜産振興補助事業完了報告書提出 (地方競馬全国協会)
令和 7 年 5 月 27 日	消費税申告(麴町税務署)
令和 7 年 5 月 30 日	消費税納付(麴町税務署) 法人税等納付(麴町税務署他)
令和 7 年 6 月 16 日	第21回評議員会、第42回理事会
令和 7 年 6 月 26 日	法人税等確定申告(麴町税務署他)
令和 7 年 6 月 30 日	令和6年度事業報告書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 7 年 7 月 1 日	社会保険算定基礎届完了
令和 7 年 7 月 7 日	食品衛生法登録検査機関の定期立入検査 (厚生労働省関東信越厚生局)
令和 7 年 7 月 10 日	労働保険料確定申告書提出(東京労働基準局)
令和 7 年 7 月 24 日	定款変更、報酬規程 変更届出書提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 7 年 8 月 26 日	令和6年度補助事業監査(地方競馬全国協会)
令和 7 年 10 月 1 日	令和8年度採用職員内定式
令和 8 年 1 月 6 日	乳業諸団体新年賀詞交換会
令和 8 年 1 月 16 日	償却資産申告書提出(千代田都税事務所)
令和 8 年 1 月 23 日	令和8年度日本中央競馬会畜産振興事業実施計画の 承認申請書提出((公財)全国競馬・畜産振興会)
令和 8 年 3 月 17 日	第43回理事会
令和 8 年 3 月 24 日	令和8年度畜産振興補助事業事前着手届提出 (地方競馬全国協会)
令和 8 年 3 月 30 日	令和8年度事業計画書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 8 年 3 月 31 日	事業年度終了

## 2. 会 議

### 第41回 理事会(令和7年5月22日)

- 1) 令和6年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 公益目的事業の内容を一部変更する件
- 3) 定款変更(案)に関する件
- 4) 規程を変更する件
- 5) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について
- 6) 職務執行状況報告
- 7) 特定費用準備資金についての報告

### 第21回 評議員会(令和7年6月16日)

- 1) 令和6年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 公益目的事業の内容を一部変更する件
- 3) 定款変更(案)に関する件
- 4) 規程を変更する件
- 5) 評議員及び理事の選任について
- 6) 令和7年度事業計画書及び収支予算書等の報告
- 7) 特定費用準備資金についての報告

### 第42回 理事会(令和7年6月16日)

- 1) 役付き理事の互選について

### 第43回 理事会(令和8年3月17日)

- 1) 令和8年度事業計画書及び収支予算書等の承認について
- 2) 特定費用準備資金取崩しの件
- 3) 特定費用準備資金取得の件
- 4) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について
- 5) 職務執行状況報告

## 3. 役 員

令和7年6月16日

下記の役員に関し、第21回評議員会で選任。

再任 理 事 阿久澤 良造、井上 剛彦、小久保 彌太郎、  
小林 一郎、姫田 尚、松田 幹、柳田 恭彦

就任 理 事 伊賀 仁

退任 理 事 原田 裕司

令和7年6月16日

下記の役員に関し、第42回理事会で役付き理事を選定。

代表理事 及び 理事長 姫田 尚

令和8年3月31日現在

理事長 姫田 尚  
専務理事 辻山 弥生  
理事 阿久澤 良造、伊賀 仁、磯貝 保、井上 剛彦、  
小久保 彌太郎、小林 一郎、佐藤 雅幸、松田 幹、  
柳田 恭彦  
監事 佐藤 靖、竹原 一明

#### 4. 評議員

令和7年6月16日

下記の評議員に関し、第21回評議員会で選任。

再任 評議員 五十君 静信、浦島 匡、大貫 陽一、桑崎 俊昭、  
齋藤 忠夫、酒井 健夫、島崎 敬一、清水 誠、  
畑江 敬子  
就任 評議員 林田 裕之、八尾 文二郎  
退任 評議員 松田 克也、三浦 晃一、水町 功子

令和8年3月31日現在

五十君 静信、浦島 匡、大貫 陽一、菊池 淳志、桑崎 俊昭、  
小菅 英夫、齋藤 忠夫、酒井 健夫、佐藤 雅俊、島崎 敬一、  
清水 隆司、清水 誠、畑江 敬子、林田 裕之、宮崎 淑夫、  
宮崎 幹生、八尾 文二郎

#### 5. 職員等の異動

期首人員	19名
採用者	1名
退職者	2名
期末人員	18名

#### 6. その他

##### 受益の機会

依頼もしくは申請により実施する食品等(主として乳及び乳製品)の試験検査認証、研修・指導は、不特定かつ多数の者から制限なく受け付け、また、ホームページで公表した。調査・情報収集及び提供、技術開発・研究開発は、その成果をホームページで公表した。

##### 受益者の義務・受益の条件

対価は営利法人等が設定する同種の手数料と比較しても適切な価格設定としてい

る。(1)～(6)及び(12)は依頼者もしくは申請者が負担する手数料、(7)～(11)及び(13)は対価を得る事業ではない。)価格等はホームページにおいて公表した。

#### 事業の合目的性の確保の取組

各事業の趣旨・目的を踏まえ、必要に応じて事業の質や成果を確保する取組を行った。

検査・検定に携わる人員や検査機器についての能力水準の確認は、監督行政による査察を定期的に受けた。また、標準作業書に則り、機器の定期点検、検査員の技能評価を実施、さらに外部の精度管理に参加して自らを確認した。

講座・セミナー・育成、相談・助言については、本協会の技術部門の役職員が当たり、他の学協会の講習会修了を資格要件とすることの他、専門家(行政・大学・研究機関・その他)の助言を得ながら活動を進めた。

調査・資料収集、技術開発・研究開発についても大学・研究機関の専門家の助言を得ながら活動を進めた。

#### 運営体制の充実を図るための取組

本協会は、職員数が20名程度と少ないことから、円滑な業務運営のためには離職の回避や人間関係が非常に重要であると位置づけている。このため、以下に記載する措置を講じ、快適な職場環境の形成をすることとしている。

1. 安全衛生管理体制の強化のための措置:安全衛生推進者及び化学物質管理者を選任し、安全衛生計画書を作成し、安全衛生懇談会を設置して、安全衛生計画の実施状況を検証し、必要な措置を講じる。
  - ① 安全衛生教育:産業医による健康講話・小休止導入等、健康確保対策等を実施。
  - ② 危険性または有害性等の調査とその対策:リスクアセスメントの実施、作業環境測定の実施及びこれらの調査によるリスク低減の対策について検討。
  - ③ 健康の保持、増進のための措置:各種健診の推進、ストレスチェック導入の検討及びメンタルヘルスに関する相談受付・外部窓口の紹介。
2. 定期的な情報交換のための措置:従業員毎の労働時間の状況を確認し過重労働防止対策の計画及び実施することの他、月1回以上の役職員ミーティングを開催することにより、各種ハラスメントをはじめ、内部・外部からの脅威について自由に発言し共有する場を設けることにより快適な職場環境の形成を図っている。なお、問題が発生した場合の対処方法として通報制度(社外窓口も設置)を設けており、匿名で通報を行うことができ、通報者への配慮がなされている。

実施時期は、令和7年6月から現在に至る。取組の効果は、職員のコンプライアンス意識が向上するとともに、心理的・物理的安全性が確保されることにより職場環境が改善される。

## 令和7年度事業報告 附属明細書

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和8年5月

公益財団法人日本乳業技術協会